

新しいおもちゃに熱中

第1子 1歳9カ月（2024年1月）

お正月は、寒さに負けず、初詣に行ったり親戚に会ったりしました。

子どもは相変わらず外出先では、最初はポーカージェイスでしばらく経つとはしゃいでいます。

ふだん外食の機会は少ないです。その数少ない外食時のお話です。

いつも外出先ではレトルトパウチの市販品を喜んでパクパク食べていたのに、久しぶりに食べさせたらろくに食べず、大半を残してしまいました。

値段がやや高いので私はがっかりし、何とか食べさせてみるも、やっぱりほとんど食べないままです。

もったいないので、以降、市販品は卒業しました。

かといって「お子様ランチ」等の子ども用メニューはまだまだ全然食べられないので、親が注文した食事から一部を取り分けて食べさせるようになりました。

注文時に子どもが多少は食べられそうなものをと考えるようになりました。

私は子どもにごはんを取られるようになりましたが、それでも、食べてくれることはうれしいなと思います。

公園デビューしました。広い場所を喜び、端から端までテクテク歩いて子どもはご満悦です。

しかし、何せ寒い時期なので、それ以降はなかなか行けず、お家での室内遊びの毎日です。

そんな中、木製のおままごとキッチンを購入しました。

きっかけは1歳6カ月健診時にいただいたアドバイスです。

「調理時に子がガスコンロを操作してしまう。楽しいようで注意しても全く聞かない」に対し「お子さん用の小さいキッチンがあると良いかも」と伺ったのです。

誕生日でもクリスマスでもないけれど、長く遊べるだろうと思い、思いきって購入しました。中古です。

こんなに大きなサイズのおもちゃは初めてです。

後日子どもに披露しようと思っていたら早々に見つかり、興味津々で自由に遊び始めました。

毎日あれこれ子どもなりに工夫して、よく遊んでいます。

気に入ったようで、よかったと思いました。

本体と一緒に、いろいろな食べ物やままごと道具もセットになっており、部品の細かいものや大きい子向けの物はこっそりしまっておきました。後々の楽しみが一つ増えました。

第1子 2歳8カ月（2024年12月）

私の入院中、上の子どもはショートステイ（子育て短期入所生活援助事業）という制度を利用し、市内の児童養護施設で暮らしました。

妊娠判明前から各種制度は調べており、つわりが少し落ち着いた頃、早々に手続きしました。入院の日程さえ決まっていれば、すぐ申し込めました。

HPを見て初めて知った制度だったのでドキドキしながら市役所に行きました。

事前問合せでも、申込時も、市の担当の方はとてもやさしく、子どもにも話しかけて下さり、ほっとしました。施設の方も同様です。事前見学もでき、利用前の不安も解消できました。

利用が終わって施設を離れる時は、先生やお友だちが玄関まで見送ってくれたそうで、私はその話を聞いて泣きそうになりました。

施設とのやりとりでの親切さからものびのびいきいきした子どもの様子からも、あたたかい雰囲気の中で、大切に育てていただいたことをひしひしと感じました。

利用して良かったです。

親と離れて泊まるのは初めてだったので、子どもがどう感じるだろうかということには心配でしたが、利用中は大泣きするようなこともなく、終始元気に暮らしたようです。

むしろさびしかったのは私の方だったかもしれません。

入院当日には、子どもの寝食や環境を心配しなくて良いのは本当によかった、申し込んでおいてよかったと思いながら、病院に行きました。

ただ、産後、数日経ってほっとしたら急に上の子のことが猛烈に気になり、どうしているだろうといてもたってもいられなくなりました。

「ご飯をしっかり食べてお友だちとたくさん遊び、元気に暮らしている」と聞いて

はいたのですが、私自身がさびしくなってしまったというのが本当のところだと思います。

生まれてすぐにそのまま NICU に入院した期間を除いては、子どもが何日もいないなんてありえないことです。子どもの不在がこたえました。

とはいえ、本当にこの制度が利用できてよかったです。

家庭や親せき宅等の預け先があればそれが一番良いと思いますが、そうでない場合は、安心して預かっていただける場があることはありがたいことです。

さて、妊娠中から大きな心配ごとが一つありました。

それは第2子を迎えるにあたり、第1子がどう思うか、状況を受け入れられるかという子どものメンタル面です。

ずっと気がかりで育児書を見てみたり、経験者に話を聞いたりしてはいたのですが、結局は実際に新しい生活が始まってみないとわからないなと思っていました。当初はどうなるかなとおもしろがっている気持ちもあったのですが、出産が近づくにつれ、とても心配になっていました。

入院中も小児科の先生から「上のお子さんはアイデンティティの危機ですからね」と聞いて、その言葉の重さとともに、何が起きるか合点がいき、なるほどと思いました。

とにかく「上の子ファースト」で取り組んでみようと決め、始めました。

二人の子との生活は、まだまだ日が浅いので、あまり目立たないものの、よくよく観察していると、わずかながらも上の子のヒリヒリした気持ちを感じ取る時があります。

ヒリヒリとは、「さびしい」「くやしい」「腹立たしい」等です。

来月以降も引きつづき、気をつけながら、始まったばかりのきょうだい同士の関係を楽しみながら、見守りたいです。

第2子 0歳0ヵ月（2024年1月）

12月初旬、予定通りの帝王切開で出産し、母子ともに無事でした。

二人とも、その後の経過もおおむね順調です。

赤ちゃんは数日NICUに入院しましたが、無事新生児室に移動し、私と同日に退院できました。

経過観察のために今後も定期的に診察を受ける予定ではあるものの、日常生活での

注意点もほとんどありません。

母子同時に退院できたことを、とてもめでたく思います。

さて、新生児育児は初めてです。

上の子の新生児期は子自身が入院しておりコロナ禍で面会時間も限られており、正直あまり知らないのです。

やっぱり新生児はかわいい！と思います。

- ・控えめな音量で懸命に泣く
- ・バンザイで寝ている
- ・寝顔が上の子にそっくり
- ・じーっとこちらを見る目
- ・あくび、くしゃみ、しゃっくり
- ・新生児微笑は常に無敵

意外だったのが、声です。「プー」「ピー」「クー」「ブー」というような声で、奇妙でおもしろいです。

赤ちゃんの声というよりも、小動物か動物の赤ちゃんの声のように聞こえます。人間も動物なので当たり前なのかもしれません。

大変さを覚悟して臨んでいることもあってか、頻回授乳含めお世話は思っていたほどハードではないですが、生まれたての子は弱い生き物だなと感じ、緊張します。心配の種は日々尽きません。

寝てばかりいて全然起きない、泣き声が小さい、ミルクを吐いた、お通じがない等々、心配ごとが生じては消えて、の繰り返しです。

今の時期は、とにかく油断せずがんばるしかないなと思っています。

まずは一カ月健診までだ！と思いながら、日々向きあっています。

課題が一つあります。

よく聞く「赤ちゃんが寝たらママも寝る」は、今のところ全くできていません。すこし昼寝する日が数日に一度あるかどうか程度です。

これからはこれを肝に銘じて、休むのも仕事だと自分に言い聞かせて休養を心がけたいです。

ではまた来月・・・。

最後までお読みくださり、ありがとうございました！